

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 5日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010 ～ 2011

課題番号：22792263

研究課題名（和文）

在日コリアンと日本人高齢者の抑鬱とソーシャルネットワークに関する看護社会学的研究

研究課題名（英文）

Depression of Korean and Japanese elderly residents in Japan and social network: a sociological approach in nursing research

研究代表者

伊藤 尚子 (Ito Naoko)

名古屋大学・医学部保健学科・助教

研究者番号：80456681

研究成果の概要（和文）：本研究は、在日1世コリアン高齢者の抑うつとソーシャルネットワークとの関係を調査し、日本人高齢者との比較検討から在日1世コリアン高齢者に対する地域ケア・地域看護モデルを構築することを目的としている。第一段階としては過去の調査の再分析を行った。それらの結果を踏まえ、インタビューガイドの作成を行ない面接調査を計画した。面接調査対象者の選定を行なうため、質的研究の理論的サンプリングの考え方ののっとり有意標本の抽出を実施した。しかしながら、面接調査を行うタイミングで、調査補助の依頼を予定していたエスニックグループの協力が朝鮮半島情勢の影響によって、円滑に得られなくなるという不測の事態が生じたため、調査方法の再検討・変更を行うこととなった。在日1世コリアン高齢者は対象者の年齢、言語の制限などがあり、単独での調査研究の継続が困難であった。そのため機縁法を用いて調査協力者の選定を行なった。また、併行して介護施設での参与観察も行った。現在、その結果をまとめ、分析を行っている。今後、結果がまとまり次第順次報告をしていく予定である。

研究成果の概要（英文）：

The data of the survey conducted last year were reanalyzed. The result was reported in an academic conference. Based on the result of the reanalysis, interview guidelines were created and forthcoming interview survey was scheduled. Nevertheless, as a result of the recent stringing conditions in the Korean Peninsula, the originally scheduled survey method was amended. Snowball sampling was used in the selection of participants and participant observation was conducted. The results were being summarized and will be reported presently.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
総計	1,200,000	360,000	1,560,000

研究分野：看護学

科研費の分科・細目：地域看護学・老年看護学

キーワード：在日コリアン高齢者,抑うつ,ソーシャルネットワーク,地域,QOL

## 1. 研究開始当初の背景

(1)在日コリアン高齢者は、朝鮮半島から渡ってきた1世と日本で生まれた2世で構成されている。先行研究より、在日コリアン高齢者は、識字率が低いこと、過去の労働環境が劣悪であったことや、制度上の無年金により公的年金に未加入であった高齢者の割合が高いことが知られている。そのため現在も無年金の高齢者が多い。また、文化背景の違いから地域社会の中で孤立している高齢者も多く、日本人高齢者と比べうつ傾向が高いことも報告されている。合わせて生活習慣病の罹患率が高いなど、日本人高齢者と比べハイリスク高齢者であることなどが指摘されている。

(2)また家族に目を向ければ、在日コリアン社会のなかでは、15歳未満の子供の割合が日本人に比べ低く急速な少子化が進んでいる。日本は急激な高齢化のなかで保健医療分野や福祉分野において、高齢者の要介護を予防する目的で、高齢者介護サービスの質の向上に向けたサービスの充実が課題となっているが、在日コリアンの社会でも、マジョリティ側である日本と同様、またそれ以上に高齢化が進行しつつある。在日コリアン高齢者の高齢化によって、介護を行う家族には大きな負担が生じている。しかしながら、一般的な高齢者を対象とした介護施設や支援制度になじまない在日コリアン高齢者も多くいるため、自宅で孤立した生活を送るなど、ここでも日本人高齢者と比べハイリスク高齢者となる傾向があることが明らかとなっている。

(3)そのような中、在日コリアン2世3世

が、自ら施設や在日コリアン高齢者の集まりの場所を作るなど、在日コリアン高齢者を支える活動が大都市を中心に始まってきている。そうした活動は、在日コリアン高齢者の文化的特徴を考慮した介護サービスの提供も行っておりその活動報告もなされ始めてはいる。しかしながらいずれも小規模なエスニックグループ側の自助努力であり、地域も限定されている。このように日本の保健、福祉分野において在日コリアン高齢者は、具体的な福祉、保健サービスの対応が立ち遅れている。一般に移民は移民受入国での生活が長くなれば、社会問題も移住先の現状に近くなることが明らかとなっているが、在日コリアン高齢者については、問題はさらに深刻であると同時に、まだまだ日本人高齢者と同様な支援を受けられていない現状があると言える。しかもこうした現状に関する学術研究としては、集住地区である大阪以外ではまだ未発展で、在日コリアン高齢者の健康問題について不明な点が多く残されている。今回、集住地区以外で在日コリアン高齢者と日本人高齢者とを比較検討することで、まだデータの蓄積が少ない在日コリアン高齢者の身体面や精神面を包括した健康を明らかにすることができる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、地域在住の在日1世コリアン高齢者に焦点を当て、在日1世コリアン高齢者の抑うつとソーシャルネットワークとの関係を調査し、日本人高齢者との比較検討から在日1世コリアン高齢者に対する地域ケア・地域看護モデルを構築することを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 研究の第一段階としては、先行して行われた研究結果を再分析した。また文献調査については調査開始時から行い、先行研究より新たな知見を確認した。先行研究によって得られた知見と再分析した結果を考慮してインタビューガイドの作成を行った。また次に、在日コリアン高齢者を対象とした施設でのフィールドワークを行った。フィールドワークは2011年と2012年で定期的に行っている。調査実施については、個人的なネットワークを利用し、調査対象である在日コリアン高齢者施設に協力を頂き実施させていただいた。

(2) 調査の第二段階としては、面接調査を計画した。面接調査対象者の選定を行なうため、質的研究の理論的サンプリングの考え方にのっとり有意標本の抽出を実施した。しかしながら、面接調査を行うタイミングで、調査補助の依頼を予定していたエスニックグループの協力が朝鮮半島情勢の影響によって円滑に得られなくなるという不測の事態が生じたため、調査方法の再検討・変更を行うこととなった。在日1世コリアン高齢者は対象者の年齢、言語の制限などがあり、単独での調査研究の継続が困難であった。そのため機縁法を用いて調査協力者の選定を行った。また、併行して介護施設での参与観察も行った。

### 4. 研究成果

(1) フィールドワークより以下の点が明らかとなった。1) 在日コリアン高齢者は、日本語、ハングルともに会話は問題がないケースが多くみられたが、識字に問題のある割合が高かった。特に1世高齢者に問題が集中していた。2) レクリエーション支援は、識字に関わらず在日コリアン高齢者が参加できる

レクリエーションを工夫する必要がある3) 在日コリアン高齢者が慣れ親しんでいる韓国朝鮮文化を取り入れた音楽や楽器を使用したレクリエーションは有効だが、日本文化であっても在日コリアン高齢者が幼少期に聞いた音楽や遊びなどを体験していれば、内容が日本文化に由来する内容であっても、認知症や機能障害がある在日コリアン高齢者も積極的にレクリエーションに参加する様子がみられた。

(2) 先行して行われた研究の再分析より、以下の事が明らかとなった。1) 前期高齢者では日本人高齢者と在日コリアン高齢者のQOLには大きな違いは認められなかった。2) 後期高齢者で女性の日本人高齢者と在日コリアン高齢者では、活力(過去1ヶ月間でいつも疲れを感じ、疲れはてていた)に有意な差が認められた。しかしながら男性の日本人高齢者と在日コリアン高齢者に有意な違いは認められなかった。3) 転倒経験があり、生活習慣病などの疾病を持つ後期高齢期の在日コリアン高齢者に、精神的健康度、身体的健康度が低い者が多かった。以上が今回の研究で得られた結果である。しかしながら、ソーシャルネットワークについては調査の都合で検討を行うことが出来なかった。今後の課題として次回追加調査を行う予定である。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計2件)

(1) Evaluation of QOL in Elderly Korean Residing in Japan using SF-36v2, N,Ito, Korea-China-Japan Nursing Conference (20111025-1027) Seoul, Korea Ewha

womans university

(2) Measures Taken by Non-Profit  
Organization Offering Nursing Facilities  
NPO, Naoko Ito, Yukiko Okamura, Etuko Kaji  
ta, The 2nd Japan-Korea Joint Conference on  
Community Health Nursing (20110716-18)  
Kobe City College of Nursing

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

伊藤 尚子 (Ito Naoko)

名古屋大学・医学部保健学科・助教

研究者番号：80456681

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし